資料７

神戸市ケアマネジャー連絡会意見

1. ACP にケアマネジャーが関わることについて

まずは、ACP という言葉について、共通認識が持てていないように感じている。ケアマネジャーの役割は、ご本人がどのような暮らしをしたいかという意思を確認し、ご本人の自立生活を支援するために必要な医療及び介護サービスを調整し、計画立案することであるため、すでにある意味では ACP に関わっていると言えるかもしれないが、ケアマネジャーがご本人から聞き取るのは、あくまでご本人の望む暮らしのためにどのような課題があるかを整理（アセスメント）するためである。その中で医療に関する課題ついては、そのままの情報をかかりつけ医に情報提供をして判断を仰ぐようにしている。ACP に含まれる医療の判断をケアマネジャーが担うことは非常に難しいと思っている。

2. 介護関係者に期待されている役割について

（１）病院・医院・施設・在宅間の連携

サービス利用者が入院することになれば、入院連携シートを病院に送るし、ヘルパー等訪問系あるいは通所系サービス事業所等より、体調が悪いという報告があれば、かかりつけ医に報告する等、様々な職種と連携して情報を共有し、利用者の生活を支援するために必要なサービスを調整ことがケアマネジャーの仕事である。また、サービス利用者からすると、困った時に様々な職種との橋渡しをしてくれるコンシェルジュのような存在であると思っている。

（２）終末期の精神面や生活面での希望の聞き取り／支援

ご本人がどのような暮らしをしたいかという意思を確認し、自立生活を支援するということがケアマネジャーの役割であるので、終末期であるかどうかの判断をされるのは医療者であるが、人生のおける老いの過程の中で、精神面や生活面の暮らしの希望の聞き取りは、その都度行っている。

（３）患者と医療職とのコミュニケーション支援

様々な職種との橋渡しをすることがケアマネジャーの役割であるので、当然に利用者と医療職とのコミュニケーション支援はしている。ただ、認知症等でご本人が判断することが難しい場合は、ご家族等キーパーソンとも話合いができるように調整している。

医療に関することの課題については、ケアマネジャーは医師等に情報提供をするあくまで橋渡しであって、治療に関することで間にケアマネジャーが入るということは、ご本人・ご家族に正しい情報を適切に伝えるためにも望ましくない場合がある。

3. ACP へのケアマネジャーの関与を難しくする要因や課題について

ケアマネジャーは様々な資格を持っている方が混在しているが、9 割以上が介護や福祉職の方であり、看護師等の医療的なバックグラウンドを持っている方はごく少数である。そのため、がん末期等サービス利用者の終末期の課題について、ケアマネジャーとしてきちんと話し合えるかというと極めて難しいが、ほとんどのケースで訪問看護をご利用されているので、訪問看護師が話合いの環境を整える場合が多いのが実情である。

また、救急現場で運び込まれた方の意思がわからず、延命治療をするかの判断ができないと困っているという話を聞くが、ケアマネジャーは、ご本人が判断される治療方法の選択肢の説明ができないので、救急時の延命に関する医療のことについて話をするということできない。

また終末期の生活は、まずは身体的痛みの軽減が主としてあり、つまり「医療」がベースにある。痛みが生じていることに対して、どうするかという部分は、医師からこの薬を塗ってくださいという指示があってはじめて、手助けすることができる。たとえば、褥瘡等症状が継続されている方で、医師より治療のためにはこのように対応してくださいという指示がある場合は対応できるが、終末期は急に症状が変化し、熱発や痛みが強くなる、食事ができない等で普段の生活と状況が違うというケースがほとんどである。その場合は医療が必要な状況のため、医師の指示がないと、ケアマネジャーが独自の判断で何かをするということは、法令上もできない。

4. ケアマネジャーが ACP に関わるための方策について

冒頭でも申し上げたとおり、ケアマネジャーは、介護サービス計画書を立案するために、必ず「どのような暮らし方をしたいのか」ということをご本人とご家族に聞いている。そのため ACP と言われても、これまで担ってきた役割と何が違うのかという部分が理解できていない。

まずは、神戸市で進めようとしている ACP がどのような内容なのかを、様々な職種が一緒になって勉強するべきであると思う。ACP についての共通認識がないと、ACP のリーダーシップをケアマネジャーがとるということはできない。

5. ACP に協力するにあたって、行政や医療関係者に対する要望について

現場のケアマネジャーの意見を伝える場所を設けて欲しい。また、ケアマネジャーはどのような役割を担っている職種かの理解も深めてほしい。連絡会の会員の意見を集約する必要があると感じている。

6. その他

ケアマネジャーはあくまで他職種と連携することが役割であり、ご本人と一緒にいる時間については、直接サービスを提供している、訪問看護師やヘルパーの方の方が長く、ご本人の意思や希望を聞き取っていると感じている場合が多い。しかし、ヘルパーの場合は直接介護されている約８割の方が非常勤であるため、ACP の役割を担ってもらうということは現実的ではないが、少なくとも訪問看護師とヘルパーのサービス提供責任者とはしっかりと連携していく必要があると感じている。

また、ACP は非常にデリケートな問題で、サービス利用者に「最期のことを考えてほしい」ということを伝えたり、「具合が悪くなったらどうして欲しいか」という質問をしたりということは非常に難しい。もちろん、聞き方や伝え方は工夫の仕方があると思うので、勉強をしないといけないとは思うが、それででも聞きづらいものである。

しかし、病気になり医師から医療についての説明を受けた後に、ご本人から ACP についての相談があれば、話合いの場を調整するということをしないといけないと思う。また、施設に入所するタイミングで「最期はどうしたいか」ということを聞くのは違和感がないと思う。

いずれにせよ ACP については、ご利用者の今までの生活過程や意思を尊重し、自己決定ができるよう、医師・ケアマネジャーをはじめ様々な職種の方がしっかりと連携し、共同で取り組んでいく必要がある。